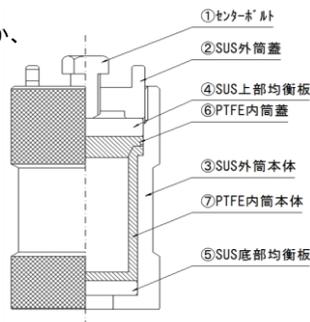


RDV- 回転型反応分解容器シリーズ 取扱説明書

この度は三愛科学㈱製反応分解容器シリーズをお買い求め頂き誠にありがとうございます。
本製品は取り扱いを誤ると正しい検査結果を得られないばかりか、火傷などの傷害を負うことがあり非常に危険です。
ご使用の際にはこの取扱説明書を携行し、取り扱い方法を充分ご理解した上でご使用下さい。
また本書を必ずお手元に保管下さいませようお願いします。



■使用方法

セット方法

- ③に⑤、試料の入った⑥⑦、④の順に装填します。
- ②を手で止まるまで軽くねじ込みます。
- ①を手で②に当たるまでねじ込みます。

締め付け方法

- ③底部側面カット部をバイス（別売）に固定します。
 - レンチ（別売）を使用し①を1/4回転ほど閉め込みます。
 - ⑥⑦の初回使用時はやや強く締め込んで下さい。
- RDV-250は上部ローレットの穴にピンレンチ#70（別売）を使用すると締め付けがしやすくなります。
※未使用の⑥⑦間には隙間が設けてあり、これが密着する事により内圧を保持します。
2~3回目以降は隙間が密着してきますので、強く締め過ぎないで下さい。
2~3回目以降の締め過ぎは製品寿命を低下させます。
※トルクレンチを使用する場合も初回使用時は、トルク値に関係なく強く閉め込んで下さい。
2~3回目以降はトルク設定値18N・mで締め付けて下さい。

※②は絶対に工具で締め付けしないで下さい。

開封方法

- ※保護メガネ、耐熱・耐酸手袋を必ず着用して下さい。
 - ※容器温度が充分下がっていることを確認してから開封作業を行って下さい。
 - ③底部側面カット部をバイスで固定し、レンチで①を緩めてから②を外して下さい。
 - ⑥⑦は底部穴より⑤を押し上げて取り出します。
- ※開封はドラフトチャンバー等、換気の良い場所で行って下さい。

■注意・警告・厳守事項（破裂、火傷の恐れ有り！）

容器内の異常な圧力上昇は容器の破裂や酸の噴出を引き起こし、

重大な事故につながる恐れがあります！

- 最高使用温度230℃を厳守してください。
- 最高使用圧力 RDV-25/50/100:15MPa RDV-250:10MPa
- 試料は乾燥重量で500mg程度に留めて下さい。※試料、酸共に少量から試みて下さい。
- 本容器は有機物の反応・分解には特に注意が必要です。
- 有機物を含む試料を取り扱う場合は、必ず予備分解してから行って下さい。
- 反応ガスが多量に発生すると予測される実験も、必ず予備分解を行って下さい。
- 予備分解：換気の良い場所で予め試料と酸を解放下で反応させ、脱ガスまたは灰化させる。
- 熱風循環式オープンで本容器を加熱する場合、熱風吹き出し口付近に置かないで下さい。
- 何らかの原因で本容器から漏れ出した試料に引火する恐れがあります。
- 加熱には防爆型機器の使用をお勧めします。
- 過塩素酸の使用は控えるか、極少量に留めて下さい。
- 火薬類など爆発性試料は絶対に入れないで下さい。
- 加熱開始時は周囲に注意を促して下さい。
- 容器温度が下がっている場合でも内圧が残っており、開封時にガスが噴出する恐れがあります。
- 保護メガネ、耐熱・耐酸手袋を必ず着用し、換気の良い場所で行って下さい。
- 開封はドラフトチャンバー、グローブボックス等で行い、万一のガス噴出に充分備えて下さい。
- SUS部品の先端部は鋭くなっています。切傷等に充分ご注意下さい。
- 無断で修理、改造をしないで下さい。
- PTFE内筒容器は消耗品です。蓋と本体の密着面に変形、傷などが生じると加熱時に内容物が漏れ出る可能性があります。その場合は速やかに新品とお取り替え下さい。
- 三愛科学㈱製以外の部品は使用しないで下さい。
- 万が一、SUS外筒又はSUS部品が膨張による変形、あるいは亀裂などの異常を生じた場合は無理に開封せず、弊社までご一報ください。

 三愛科学株式会社

〒462-0847 愛知県名古屋市中区金城2-11-17
TEL (052)915-2621 FAX (052)915-2622

sanaikag@ceres.ocn.ne.jp

<http://www.sanai-kagaku.co.jp>